



令和7年7月22日
第1回千葉県文化芸術推進懇談会

第2次千葉県文化芸術推進基本計画の 令和7年度の主な取組について

千葉県文化振興課



計画の概要

第2次千葉県文化芸術推進基本計画では、目指す姿を実現するため、3つの視点を踏まえ、4つの施策の柱、14の施策の展開を次のとおり定めました。

施策の柱	3つの視点			目指す姿
	1 ちばの文化芸術を担う「人づくり」	2 ちばの文化芸術に親しむ「環境づくり」	3 ちばの文化芸術を生かした「地域づくり」	誰もが文化芸術に親しめる千葉
	1 県民が文化芸術に親しむための基盤の整備・充実			
	<ul style="list-style-type: none"> ① 誰もが文化芸術に触れ親しむ機会の提供、関心及び理解の促進 ② 誰もが表現者として、生涯にわたり文化芸術を楽しむことのできる環境整備 ③ こども・若者の文化芸術活動の充実 ④ 文化芸術活動の担い手やそれを支える人材の育成・支援・活用 ⑤ 文化施設等(文化会館、美術館・博物館等)の機能の充実・多面的な活用 ⑥ 持続可能な文化芸術活動の推進 			
	2 文化芸術を通じた連携・協働			
	<ul style="list-style-type: none"> ① 様々な関係者による文化芸術のネットワークの構築、文化交流の推進 ② 観光等の様々な分野と連携した文化資源の活用と地域の活性化 			
	3 多様な伝統文化の保存・継承・活用			
	<ul style="list-style-type: none"> ① ちばの多様な伝統文化を知る機会の提供 ② 伝統文化の保存・継承 ③ 文化財・文化的景観等の保存と活用 ④ 伝統文化を担うこども・若者の育成 			
	4 ちばの強みを生かした文化芸術の創造・発信			
	<ul style="list-style-type: none"> ① 「ちば文化」のブランド化による認知度向上と県民の誇りの醸成 ② 新たな「ちば文化」の創造 			

計画の概要

目指す姿 誰もが文化芸術に親しめる千葉

基本指標

本計画全体の達成度を計るための基本指標及び目標を次のとおりとします。

指標	現状 (令和5年度)	目標 (令和13年度)
この1年間に文化芸術を鑑賞した県民の割合 (オンラインでの鑑賞を含む)	76.7%	90.0%
この1年間に、鑑賞を除く文化芸術活動をした 県民の割合(オンラインでの活動を含む) (「文化芸術活動」とは、創作や出演、習い事、祭りや体験活動、 趣味を同じくするグループでの活動への参加を含む)	28.0%	50.0%

※県政世論調査の結果による。

柱ごとの成果指標、主な取組

施策の柱1 県民が文化芸術に親しむための基盤の整備・充実

身近な日常の中にある文化芸術にもスポットを当て、誰もが文化芸術の鑑賞や自己表現を行いやすくするための基盤を整備します。

1 成果指標

指標	現状 (5年度)	目標 (13年度)
県内公立文化会館、美術館・博物館及び県の主催事業で文化芸術を鑑賞した人数※1 (オンラインでの鑑賞を含む)(文化会館は自主事業に限る)	4,219,460人	増加を目指す※2
県内公立文化会館、美術館・博物館及び県の主催事業で文化芸術活動をした人数※1 (発表、練習、文化芸術関連の講座への参加等(オンラインの活動を含む))(文化会館は自主事業に限る)	575,757人	増加を目指す※2
県及び市町村における、こども・若者を対象とした文化芸術事業の参加者数※1 (こども・若者の人数に限る)(オンラインでの取組を含む)	108,677人	増加を目指す※2
文化芸術に触れ、自ら取り組むための環境が整っていると 思う県民の割合※3	22.1%	50.0%

※ 1 計画の進捗状況調査の結果による。

※ 2 前計画期間中の実績は新型コロナウイルス感染症の影響を受けた期間があり、今後の数値目標の設定が困難なため、増加を目指すとする。

※ 3 県政世論調査の結果による。

施策の柱1 県民が文化芸術に親しむための基盤の整備・充実

2 主な取組

施策の展開①誰もが文化芸術に触れ親しむ機会の提供、関心及び理解の促進

◆千葉交響楽団による活動等（予算額：49,647千円）

千葉交響楽団の運営に対し助成するとともに、児童・生徒や県民を対象にした公演等を支援する。主催公演（定期演奏会、特別演奏会）のほか、依頼演奏会、アウトリーチ活動を行うことで、文化芸術に触れ親しむ機会の提供を行う。

施策の展開②誰もが表現者として、生涯にわたり文化芸術を楽しむことのできる環境整備

◆障害者芸術文化活動支援事業【拡充】（予算額：13,500千円）

障害のある人や障害福祉サービス事業所等の芸術文化活動（美術及び舞台芸術）を支援する「障害者芸術文化活動支援センター」において障害のある人の自立と社会参加の促進を図る。障害者の文化芸術活動に関する相談受付、障害当事者や支援者向けの人材育成・ワークショップの実施、障害者の文化芸術活動に関する関係者のネットワークの構築、県立美術館での展覧会の開催、県内公共施設及び商業施設等を巡回する作品展示を実施するほか、バリアフリー演劇鑑賞会を開催する。

施策の展開③こども・若者の文化芸術活動の充実

◆伝統芸能・洋楽～ふれあい体験事業（予算額：4,448千円）

小・中学生を対象に、邦楽・洋楽のプロの演奏者を派遣して、鑑賞及び楽器体験を行う。

◆千葉県文化会館リニューアルオープン事業【新規】（予算額：20,000千円）

少年少女合唱団合唱団による公演や、楽器の演奏体験、各種ワークショップを実施

施策の展開④文化芸術活動の担い手やそれを支える人材の育成・支援・活用

◆アーティスト・フォローアップ事業（予算額：28,000千円）

既存の枠にとらわれない多様で優れた文化芸術活動を行う才能豊かな新進アーティストのキャリア形成を支援する。また、千葉文リニューアルオープン事業において支援アーティストによるワークショップやコンサートを実施。

施策の展開⑤文化施設等（文化会館、美術館・博物館等）の機能の充実・多面的な活用

◆県立美術館・博物館事業（予算額：2,076,004千円）

5館8施設の県立美術館・博物館において展示及び教育普及事業を実施する。各館の特色を生かして、博物館では千葉県の自然・文化・歴史を紹介する展示・体験を、美術館では千葉県ゆかりの作家・作品の展示公開・体験を行うなど、年間を通じて様々な事業を実施する。

施策の展開⑥持続可能な文化芸術活動の推進

◆県立文化会館自主事業、管理運営事業（予算額：653,874千円）

県立文化会館4館それぞれが館の特徴を生かした鑑賞事業、県民参加事業、新進芸術家等の育成事業など、様々な文化事業を実施し、入場者数の増加を図る。また文化会館を適正に管理運営する。

主な取組については、文化振興課の取組を掲載。

施策の柱2 文化芸術を通じた連携・協働

文化芸術を通じたネットワークの構築や他分野との連携を行うことで地域の活性化を目指します。

1 成果指標

指標	現状 (5年度)	目標 (13年度)
観光・国際交流・福祉等、文化芸術と他分野が連携する事業に取り組んだ市町村の割合 (いずれもオンラインでの取組を含む)	42.6%	70.0%

※ 計画の進捗状況調査の結果による。

2 主な取組

施策の展開①様々な関係者による文化芸術のネットワークの構築、文化交流の推進

◆ 国立歴史民俗博物館との連携事業【新規】（予算額：2,295千円）

国立歴史民俗博物館と相互に連携し地域の活性化等を図るため、共同研究等を行うとともに、共通のパンフレット発行などの広報活動を実施する。

施策の展開②観光等の様々な分野と連携した文化資源の活用と地域の活性化

◆ 「ちば文化」創造・継承事業（予算額：20,000千円）

本県の文化の向上と地域の魅力（ちば文化資産等）の発信、地域活性化を図るため、本県ならではの多様で豊かな自然環境や東京との隣接性を生かした事業の開催にかかる経費の一部を助成する。

◆ 千葉県文化会館リニューアルオープン事業【新規】（予算額：20,000千円）

教育関係や、農林水産、スポーツ関係の展示や体験を実施。

施策の柱3 多様な伝統文化の保存・継承・活用

県内各地で守られてきた伝統文化を地域で活用し、未来に継承していくための取組を推進します。

1 成果指標

指標	現状 (5年度)	目標 (13年度)
県主催の伝統文化事業の鑑賞者数※1 ※県、県立文化会館、県立美術館・博物館が主催する文化芸術行事における、伝統文化事業(オンラインでの鑑賞を含む)	574,197人	増加を目指す※2
県主催の伝統文化体験事業の参加者数※1 ※県、県立文化会館、県立美術館・博物館が主催する文化芸術行事における、伝統文化体験事業(オンラインでの体験行事を含む)	71,323人	増加を目指す※2

※1 計画の進捗状況調査の結果による。

※2 前計画期間中の実績は新型コロナウイルス感染症の影響を受けた期間があり、今後の数値目標の設定が困難なため、増加を目指すとする。

2 主な取組

施策の展開①ちばの多様な伝統文化を知る機会の提供

◆ 県立美術館・博物館事業（中央博物館特別展示）（予算額：22,000千円）

千葉県自然・文化・歴史を紹介する展示・体験を実施。令和7年度は特別展「房総うみの幸大百科－千葉の豊かな海と食文化－」を開催

施策の展開②伝統文化の保存・継承

◆ 「ちば」の文化芸術発信事業（予算額：23,000千円）

伝統文化等の保存・継承に取り組むとともに、県民の文化芸術活動の発展につなげるため、本県の魅力的な文化芸術を発信するための舞台公演を県民が参加できる形で実施する。青葉の森公園芸術文化ホールの能舞台を活用した公演や、県内の郷土芸能団体等による実演・和楽器演奏体験等を行う。また、令和7年度は千葉県文化会館リニューアル記念公演で千葉交響楽団と伝統芸能のコラボレーションコンサート等を実施。

◆ 千葉県文化会館リニューアルオープン事業【新規】（予算額：20,000千円）

県立袖ヶ浦高等学校による書道パフォーマンスや雅楽の公演、箏と尺八の楽器演奏体験を実施

施策の展開③文化財・文化的景観等の保存と活用

◆ 県立美術館・博物館事業（再掲） 詳細はP.4（施策の柱1）を参照

施策の展開④伝統文化を担うこども・若者の育成

◆ 伝統芸能・洋楽～ふれあい体験事業（再掲） 詳細はP.4（施策の柱1）を参照

施策の柱4 ちばの強みを生かした文化芸術の創造・発信

ちばの強みを生かした「ちば文化」のブランド化を進めるとともに、文化芸術の新たな表現・発信・保存方法として発達してきたテクノロジーの導入や伝統文化等と国内外のコラボレーションなどによる新たな「ちば文化」を創造します。

1 成果指標

指標	現状 (5年度)	目標 (13年度)
千葉県に愛着や誇りを感じる人の割合	—	増加を目指す

※ 令和7年度の県政世論調査からの増加を目指す。

2 主な取組

施策の展開①「ちば文化」のブランド化による認知度向上と県民の誇りの醸成

◆ 県民の日行事（予算額：49,000千円）

県民が千葉の魅力を見直し、郷土愛を育み、千葉アイデンティティを醸成する機会とするため、「県民の日」を記念する行事を県内各地で実施する。また、県民の日中央行事として、幅広い世代の県民が楽しめる参加・体験型のイベントを実施する。令和7年度は、中央行事を発酵文化を意識した内容を取り入れ香取市で実施するとともに、県内各地で地域行事を開催。

◆ 千葉県文化会館リニューアルオープン事業（再掲）詳細はP.5（施策の柱2）を参照

施策の展開②新たな「ちば文化」の創造

◆ 芸術祭開催事業【新規】（予算額：103,000千円）

千葉県誕生150周年記念事業で再認識された本県の魅力や、記念事業で構築された多様な主体との連携等のレガシーを未来に引き継いでいくため、新たに、県と複数の市町村が広域で連携し、3年に1度の芸術祭を開催する。令和7年度は、来年度の開催に向けた準備を行う。

基本指標・成果指標(一覧)

項目	指標	現状 (5年度)	目標 (13年度)
基本指標 【目指す姿】	誰もが文化芸術に親しめる千葉		
	この1年間に文化芸術を鑑賞した県民の割合(オンラインでの鑑賞を含む)	76.7%	90.0%
	この1年間に、鑑賞を除く文化芸術活動をした県民の割合(オンラインでの活動を含む) (「文化芸術活動」とは、創作や出演、習い事、祭りや体験活動、趣味を同じくするグループでの活動への参加を含む)	28.0%	50.0%
施策の柱1	県民が文化芸術に親しむための基盤の整備・充実		
	県内公立文化会館、美術館・博物館及び県の主催事業で文化芸術を鑑賞した人数 (オンラインでの鑑賞を含む)(文化会館は自主事業に限る)	4,219,460人	増加を 目指す※1
	県内公立文化会館、美術館・博物館及び県の主催事業で文化芸術活動をした人数 (発表、練習、文化芸術関連の講座への参加等(オンラインの活動を含む))(文化会館は自主事業に限る)	575,757人	増加を 目指す※1
	県及び市町村における、こども・若者を対象とした文化芸術事業の参加者数 (こども・若者の人数に限る)(オンラインでの取組を含む)	108,677人	増加を 目指す※1
	文化芸術に触れ、自ら取り組むための環境が整っていると思う県民の割合	22.1%	50.0%
施策の2	文化芸術を通じた連携・協働		
	観光・国際交流・福祉等、文化芸術と他分野が連携する事業に取り組んだ市町村の割合 (いずれもオンラインでの取組を含む)	42.6%	70.0%
施策の柱3	多様な伝統文化の保存・継承・活用		
	県主催の伝統文化事業の鑑賞者数 ※県、県立文化会館、県立美術館・博物館が主催する文化芸術行事における、伝統文化事業(オンラインでの鑑賞を含む)	574,197人	増加を 目指す※1
	県主催の伝統文化体験事業の参加者数 ※県、県立文化会館、県立美術館・博物館が主催する文化芸術行事における、伝統文化体験事業(オンラインでの体験行事を含む)	71,323人	増加を 目指す※1
施策の柱4	ちばの強みを生かした文化芸術の創造・発信		
	千葉県に愛着や誇りを感じる人の割合	—	増加を 目指す※2

※ 1 前計画期間中の実績は新型コロナウイルス感染症の影響を受けた期間があり、今後の数値目標の設定が困難なため、増加を目指すとする

※ 2 令和7年度の県政世論調査からの増加を目指す